

令和3年度前期 学校評価アンケート考察

丹波篠山市立篠山中学校

本年度の学校評価アンケートは、4:あてはまる、3:少しあてはまる、2:あまりあてはまらない、1:あてはまらないとしており、数量的には等間隔と言えないが、増減の目安として平均値を記載し、()に、令和2年度後期から令和3年度前期の増減を示している。

I. 自らの命を守り抜く安全・防災・健康教育

(生徒) あなたは、学校の集団生活のルールやマナーを守っている 3.7(0.1)

(保護者) お子様は、登下校中など、交通安全に気をつけている 3.7(±0)

(教職員) 学校は、毎月の安全点検を確実にに行い、修理修繕によって事故・ケガの未然防止に努めている 3.3(0.4)

→ 新型コロナウイルス感染防止対策が継続していることもあり、生徒・保護者・教職員が安全・健康に関して高い意識で取り組んでいる。今後も、家庭や地域、関係機関・団体と連携した防災防犯体制を確立するとともに、危険箇所の把握や予告なし避難訓練、自転車保険への加入等を通して安全に対する意識の高揚を図る。

交通指導についても、立番というその場だけの指導ではなく、日頃から学活、学年集会や部活動など、学校生活の中で安全(防災・交通マナーなど)に対する意識の高揚に努めるとともに、生徒会の啓発など生徒自らが交通マナーについて考える取組を進める。

II. 誇りを感じる学校・学級集団

(生徒) あなたは、楽しく学校生活が送れている 3.6(±0)

困ったことがあれば相談できる友達がいる 3.6(±0)

(保護者) お子様は、楽しく学校に行っている 3.6(0.1)

(教職員) 学校は生徒会を中心として「いじめ防止」に主体的に取り組ませている
[生徒 3.5(0.4) 保護者 3.3(0.1) 教職員 3.2(0.6)]

→ 生徒会「No More いじめ宣言」を策定し、缶バッジの配布など、令和2年度から3年度にかけて生徒会が主体的にいじめ対策に取り組んできたことが生徒の意識を高めている。新型コロナウイルス感染拡大により、行事をはじめとする集団活動に制限が生じており、学級活動での仲間づくりなどを行うことによって課題解決力や人間関係形成・社会参画する力を育てる。また、学年担任制による即時即日の教育相談を進め、心身のケアを図る。

III. 存在感や成就感を大切にした生徒指導

(生徒) いじめは絶対に許されないと考えている 3.9(0.1)

生徒の悩みや不安に対して親身になって相談にのってくれる 3.4(±0)

いじめを受けたり見かけたりしたら誰かに相談する 3.6(±0)

篠山中学校情報機器取扱三箇条を守っている 3.2(0.1)

(保護者) 学校はいじめの未然防止、早期発見、早期対応に努めている 3.2(0.1)

いじめを受けたり、見たり、聞いたりすると誰かに相談している 3.1(±0)

学校は子どもや保護者の悩み、思いをしっかり聞いている 3.1(0.1)

情報機器の使い方について家庭で約束を決め守らせている 3.1(0.1)

(教職員) いじめの未然防止、早期発見、早期対応、早期解決をしている 3.6(0.4)

学校は情報機器の取扱について生徒会・PTA・警察と連携した取組を行っている 2.9(0.2)

→ 生徒に対する生活実態調査では、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、自宅にいる時間が長くなり、テレビやゲームの使用時間が長くなっている。また、スマホでの不特定多数を相手にするアプリによるトラブル事案もあり、情報機器取り扱いのルールについて学校と生徒会が連携しながら改訂を進めていく。「すばやく丁寧に」組織的に教育相談、いじめ対応に取り組む、生徒と教師の対話を増やしていく中で、今後も

いじめの解消率100%となるように取り組む。また、警察、福祉、医療等の関係機関と連携しケース会議等による組織的・計画的な個別支援を行う。

IV. 豊かな人間性・社会性を育む道德教育、人権教育

(生徒) 道德の時間に自分の考えを言葉で表現し人と交流している 3.3(±0)
道德の時間に自分の生活や生き方を見つめふりかえることができている
3.3(▲0.1)

(教職員) 道德研修を意欲的に行い、道德の授業の改善に努めている。2.7(▲0.3)

→ 道德の授業は学年単位でローテーション授業により組織的に取り組み、本年度は効果的な中心発問について研究をしている。生徒の自ら考え表現し交流できた割合が増加している。今後も、「特別の教科 道德」を要とし、教育活動全体で、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道德性を養う。

V. 将来や社会の糸口をつかむキャリア教育

(生徒) あなたはふるさと篠山の良さを知っている。3.3(0.1)
あなたにはいいところがある 3.1 (±0)

(保護者) 学校は、生徒の自己理解、将来の職業、生き方等について、適切な進路指導を行っている 3.1 (0.1)

お子様は、ふるさと篠山の良さ(自然、文化、歴史)を知っている 3.0(0.1)

(教職員) 篠山の伝統文化を理解し、生徒に伝えようとしている。2.2 (0.2)

→ 新型コロナウイルス感染拡大により、多人数を学校に招聘したり、地域に出向く活動が難しい状況にあるが、地元企業によるICT教育や地域人材による音楽・美術授業を進めている。篠山のよさを知っていると回答する生徒の割合が増加している他、市生活調査では達成感を感じる生徒の割合が増加している。また、生徒が生き方を考え、自らの意思と責任で自らのよさを生かす進路を選択できるよう、キャリアノートを活用し、個に応じた組織的・計画的な進路指導を行う。

VI. 基礎力・思考力・実践力を育む学習指導・授業改善

(生徒) あなたは、予習や復習などの家庭学習に取り組んでいる 2.7(▲0.3)
対話が深い学びにつながるように「書く」「表現する」「修正する」などの工夫をしている 3.0(±0)

学校の授業は最初に「目標」が示され、最後に授業をふりかえる「まとめ」がされている 3.5(0.3)

学校の授業の中には、個人で考えるところ、ペア・グループで話し合うところ、それを発表するところがある 3.7(0.2)

授業が楽しく分かりやすい 3.0 (▲0.1)

あなたは、学校の授業の中で、疑問や分からないことがあれば先生に尋ねて解決している 2.9(±0)

(保護者) 学校は楽しく分かる授業になるように工夫している 3.1 (0.1)

予習や復習などの家庭学習に取り組んでいる 2.5(▲0.1)

学校は授業の疑問や分からないことをていねいに教えてくれる 2.9(±0)

(教職員) 「篠中授業スタンダード」に基づいた授業をしている 3.0 (0.2)

予習や復習などの家庭学習に取り組ませている 2.8 (0.2)

学校は、授業のユニバーサル化を図り、『豊かな人間関係づくり』・『伸びる力』の育成に努めている 2.8(0.1)

→ 生徒アンケートでは、目標提示、対話活動、ふりかえり・まとめなど新学習指導要領を意識した学校の授業スタンダードが定着している傾向が見られる。一方で、予習・復習の実施について、生徒、保護者は減少傾向であるのに対して、教師は取り組ませていると回答している率が増加している。宿題だけではなく見通しのある予習や振り返りのある復習を含む家庭学習に取り組めるよう、学校は組織的に取り組む。

コロナ渦により対話など授業方法に工夫が求められるが、対話が必要な場面を適切に設定したり、誰もがわかりやすいユニバーサル・デザインの授業改善を進める。

Ⅶ. 支え愛に満ちた活気あるコミュニティ・スクール

- (生徒) あなたは学校、地域でさわやかな元気のよい挨拶ができる 3.5(0.1)
- (保護者) お子様は家庭や地域の中で気持ちの良いあいさつができる 3.1 (▲0.1)
学校は、保護者や地域の意見を真摯に受け止め、連携を進めている 3.2(0.1)
社会生活のルールやマナーが守れるようにしつけをしている 3.5 (0.1)
- (教職員) 爽やかなあいさつができる生徒を育てるために、自ら進んであいさつをしている 3.0(±0)
保護者・地域への広報活動を積極的に行っている 3.3(▲0.1)
学校運営協議会を開催し、学校への意見聴取や環境美化活動、花いっぱい運動を積極的に行っている。 3.0(±0)
学校は小中連携推進委員会、小中合同研修会、各小学校への出前授業、体験入学、入学説明会などを通して、小中の相互理解に努めている。 3.2(▲0.1)
- 本年度、重点的に取り組んでいるユニバーサルデザインの授業や学級経営を中心に小・中・高等学校の連携を密にし、学びと育ちの連続性を確立する。また、生徒・保護者・地域代表・教職員から構成する四つの力委員会を実施したり、地域人材を活用した教育活動を推進する。保護者アンケートで参観日も中止になっている関係上、無回答が多い項目もあった。今後、参観日の実施方法も検討しつつ、ホームページや学校・学年だよりでいっそう教育内容の見える化を図る。

Ⅷ. まごころで子どもとともに学ぶ教職員組織

- (教職員) 定時退庁の木曜日、18：30までに退庁している 2.0 (±0)
あなたは、原則週2回のノー部活動デーを実行している 3.7(0.2)
職員申し合わせ事項を意識して職務を行っている 3.1 (0.4)
- 会議・校務の効率化・記録簿によるタイムマネジメントの徹底を行う。(校務の効率的・効果的な実施、会議資料の事前配布、ノー部活デーや定時退勤日の徹底、記録簿によるタイムマネジメント、計画的な年休取得など勤務時間の適正化)
また、教職員のチームワークづくりには、自分の考えや思いを言葉で伝えることができる雰囲気が必要である。日頃の職員室、委員会、学年会議等で発言できる組織づくりを継続する。
校務については、生徒の教育の効果を考慮しつつ、学校改革を中心に「選択と集中」を進める。

◎ 記述について

生徒・保護者アンケートに学校経営へのご意見を記載いただいた方が多数ありました。そうした内容も踏まえて、後期の改善策を作成しております。

また、いただいたご意見の中には、生徒自身や、その関係生徒など、個別的な内容の記述もありました。個別的な内容については、教育相談窓口にお尋ねいただくか、担任にご相談ください。